■ 創立100周年ロゴマーク

飛躍年にしよう！

住吉高校創立100周年

自主・自律を未来につなぐ

住吉高校100周年ロゴ

私は旧制住吉中学校の最後に在籍し、次に現在に至る住吉高校になるわけだが、創立100周年を迎えることになり誠にめでたく感無量である。

その 100 周年のロゴを依頼され、未来にむけて更に飛躍していくよう願いを込めて、デザインした。顔が重なっていくイメージは、住高生として学び良き人格を形成していくこと、自主・自律を目指し成長していくことを意味し、又住吉高校を多くの人々が目指してほしいとの思い等が重なりロゴとなった。

改元により「令和」となり、時代が新しくなるにつれ、住吉高校生への社会の期待も更に大きくなると思われる。このロゴが広く浸透し、今後も益々隆盛していくことを願っている。

永井 一正（中22期）

ながい かずまさ：グラフィックデザイナー／東京藝術大学彫刻科中退／札幌冬季オリンピック、茨城県、アサヒビール、つくばエクスプレス、JAグループ、三菱UFJファイナンシャルグループなどのCIやマーク、展覧会などのポスターを制作／現在、日本デザインセンター最高顧問。日本グラフィックデザイナー協会特別顧問。

ひゃくねんは、ひやくねん。

幸運にも住吉中学・高校の100周年という慶事に出会い、キャッチ・フレーズをつくらせて頂いた。駄洒落な僕のフレーズを、しっかり者の女房よろしく引き締めてくれたのは、広報委員長の杉原元美さん。僕は住高18期で、大学を出ると広告会社に入ってＣＭやポスターなど作っていたから、永井一正先生は憧れの大先輩。どんな絵柄ができるのか、さぞかし立派なものが、とワクワクして待っていたら、届いたのは見事なまでに脱力の効いた、スペインの画家ミロのような無心に満ちた童画的な作品。世の功利や損得を越えて溌剌と、純で自由な価値観を追求するのは、我らが住吉の伝統的エスプリではなかったか。良き伝統は絶えざる変革を促すと言うけれど、新しい次の飛躍のために、このロゴマークが少しでも役立つなら、それ以上に嬉しいことはない。

岩佐 倫太郎（高18期）

いわさ りんたろう：美術評論家／京都大学文学部卒業／広告代理店でＣＭ制作ののち、博物館・博覧会に従事／キッズプラザ大阪、なみはや国体をプロデュース／加山雄三「地球をセーリング」を作詞／著作：「東京の名画散歩 ― 絵の見方・美術館の巡り方」（舵社）など／現在、美術評論家として多くの講演と執筆活動を行う。